

清須市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進会議 第3回会議 議事録

日時	平成28年2月5日(金) 午前9時30分～11時30分		場所	清洲庁舎 2階 202会議室
出席者	推進会議 委員	内田 俊宏 委員（中京大学経済学部客員教授）【座長】 山本 武司 委員（清須企業懇話会幹事） 富田 正美 委員（愛知県教育委員会生涯学習課文化財保護室室長） 北山 ゆり 委員（愛知県立新川高等学校校長） 舟橋 啓臣 委員（愛知医療学院短期大学学長） 山田 功 委員（中日信用金庫理事長） 平野 邦弘 委員（日本労働組合総連合会愛知県連合会尾張中地域協議会副代表）		
	清須市	副市長、教育長、企画部長、事務局（企画部企画政策課）		

1 開会

事務局

お待たせいたしました。おはようございます。それではただいまより「清須市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進会議」の第3回目の会議を開催いたします。

本日は、いつも開催しておりました本庁舎のほうの会場が確定申告ということとなっておりますので、本日はこちら、清洲庁舎のほうでの開催とさせていただきます。

それでは、議題に入りますまで、私、企画政策課長の河口が進行のほうを務めさせていただきますので、よろしくお願いいたします。

本日の会議のスケジュールにつきましては、お手元の「次第」のとおりとなっております。

なお、会議につきましては2時間程度を想定しておりますので、よろしくお願いいたします。それでは、次第の「1 開会」に移らせていただきます。

開会に当たりまして、永田副市長よりご挨拶を申し上げます。

○あいさつ

永田副市長

委員の皆様、改めましておはようございます。

このところ、冬らしいといえますか、大変寒い日が続いておりますけれど、そのような中、また委員の皆様には大変お忙しい中、ご出席を賜りました。誠にありがとうございます。

きょうは第3回目ということでございますが、これまで2回の会議を通じて、委員の皆様からご提案やご意見を頂戴いたしまして、総合戦略の骨子案もまとまってまいりました。今後4年間の計画ということでございますけれども、すぐ取り組めるものは取り組んでいこうことで、平成27年度、本年度の補正予算、あるいは平成28年度当初予算にできるものは盛り込んでいこうことで今、準備を進めているところでございます。

本日は、現在、パブリック・コメントにかけております市の人口ビジョン、そして創生総合戦略の案につきまして、皆様からご意見を頂戴したいと考えております。

また、特に総合戦略の実効性を担保するための指標ということで、数値目標とK P I、大変重要な役割を果たすものとなっております。

ぜひ、委員の皆様の視点から本市の総合戦略推進の指標となります数値目標とK P Iの設定に向けたご意見、ご提案を賜りたいと思っています。

本日はどうぞよろしくお願い申し上げます。

2 議題 清須市人口ビジョン（案）及び清須市まち・ひと・しごと創生総合戦略（案）について

事務局

それでは、議題に入らせていただきます。

こちらからは座長の内田先生に進行をお願いしたいと思いますので、内田先生よろしくお願い致します。

座長

ここからは私のほうで議事を進行させていただきますので、よろしくお願い致します。

それでは早速、次第の「2 議題」(1)清須市人口ビジョン（案）及び清須市まち・ひと・しごと創生総合戦略（案）についてということで、議論に入っていきたいと思います。

お手元に資料を配付していただいておりますけれども、まずはこちらの資料について、事務局からK P Iや数値目標を中心にまとめてご説明をいただいた上で、各委員の先生方からご意見を頂戴したいと思います。

それではまず、事務局からのご説明をお願いします。

○資料説明 （事務局）

○意見交換

1) 基本目標①・②の「数値目標・K P I」について

座長

ありがとうございました。

それでは、ただ今事務局からご説明のありました「清須市まち・ひと・しごと創生総合戦略（案）について」、全体として2巡、ご意見を頂戴したいと思います。

まず1巡目として、基本目標の①と②、ここの数値目標とK P Iの項目を中心に、素案から修正された施策の内容なども含めまして、各委員からお一人5分くらいを目途にご意見を頂戴したいと思います。

それでは、毎回名簿順で恐縮ですが、山本委員からご意見を頂戴したいと思います。

山本委員

山本でございます。よろしくお願いいたします。

拝見させていただきまして、前回の我々の意見が反映された計画でございますので、基本的には大枠について、違和感はございません。

何点かお伺いしたい点としましては、全体に関わってくるのですが、まず1つ、優先順位付け。これは私、前回の会議でも、あるいはその前の会議でも申し上げたのですが、いろいろな施策がある中で優先的にやるのは何なのか。そういった考え方をきちんと示さないと結局あれもこれもになって、ややもすると共倒れになってしまう。そんな危険性がありますので、優先順位付けをきちんと付けたほうがいいのではないかと申し上げたところです。しかし、ちょっとすみません、どこかに書いてあるのか、もしくはご説明いただいたのかもかもしれませんが、私は感じられなかったので、またご説明いただければと思います。

それから、個々のK P Iにつきましては、こちらも全体に関わるところですけれども、各々のK P Iの根拠について、例えばサクラルートについての目標値が、なぜ下がっているのかなどのご説明をいただきたいと思っています。いろいろと指標の理由を言っているものもあるのですが、目標自体が、ストレッチされた目標なのか、それとも順当な目標なのか、それとも「これだったらクリアできるだろう」という目標なのか。そういうところも読み取れませんでした。

例えば、同じ現状維持でも、5ページに書いてある「年間出生数の現状維持」。この現状維持はすごく大変だなと思う一方で、4ページ目にある「「kiyosu Free Wi-Fi」のアクセス件数」、四半期で3,033件に対して、目標値が年間で12,000件なので、普通にやれば到達するのではないかというふうに素人目には感じてしまいますので、一方ですごくストレッチした目標だなと思いつつも、一方では順当な目標だなと感じるものもあります。ですので、その辺の強弱を付けたのか、それが優先順位に絡むのかということを含めて、またご説明いただきたいと思っています。

K P Iはこれから4年間追いかけていく指標ですので、なぜこの指標になったのかというのがきちんと清須市民一人ひとりの腹に落ちるような説明があったほうが、より市民にとってシビックプライドにつながっていくと私は思っております。以上でございます。

座長

ありがとうございます。今、山本委員からもありましたけれども、K P Iの設定については、恐らくそれぞれ市のほうで把握しているような統計の中から重要なものをピックアップしていただいていると思うのですが、確かにこの目標を設定した前提といたしますか、目標値に関しても目標設定の基準というか、例えば人口に関連するものとか出生数とかその辺は、人口見通し、年齢別のものに連動している可能性が高いとは思われます。何かそういう目標設定の基準みたいなものが前提としてあるようであれば、事務局からご説明いただきたいと思うのですが、

事務局

基本目標ごとの4つの数値目標につきましてはそれぞれ目標値を掲げておりまして、一つず

つ簡単にですけれども、その目標値がなぜそこかというところをご説明したいと思います。

1つ目の「地域資源とシビックプライドを核として活力あるまちをつくる」というところにつきましては、この目標自体、地域の活力を醸成して交流人口の拡大を図ることが目標でございますので、それを測るための数値的な指標といたしましては、先ほどもご説明いたしました。現在、平日に比べて低い滞在人口率であります休日の滞在人口率を、まずは平日並みにしっかり上げていく。観光誘客等を促進して、休日の流入を促進して、そういった数値を上げていきたいというところから設定をしております。

次に、基本目標②「若い世代が子育てしやすいまちをつくる」。こちらの数値目標の根拠でございますが、年間出生数の現状維持700人ということで、山本委員からもなかなかハードルが高いということもあったのですけれども、700人というのは過去10年間の本市の平均出生数、過去10年間の平均の年間出生数ということになっておりまして、それ自体が他の市と比べて比較的高いトレンドにありますので、今後4年間もこの高いトレンドを、しっかり環境整備することによって維持していくということで目標設定をしております。

次に、基本目標③「高齢者が元気でアクティブに暮らせるまちをつくる」。こちらの数値目標、要介護認定率の抑制、17.5%未満につきましては、元気な高齢者の方をたくさん作って、できる限り介護予防というか、介護認定を受けないような形で元気に暮らしていただくというところで、こちらは本市の高齢者福祉計画という介護と連動した計画の中で、市全体でいった場合に17.5%というのが平成32年度に見込まれておりますので、そこからいかに少しでも下げることができるかというところで目標値を置いております。

最後、基本目標④「安全・安心で快適に暮らせるまちをつくる」というところで、こちらにつきましては人口の社会増の継続というところで毎年度継続というところ。基準値といたしましては、平成27年足下の数値としては188人の社会増というところになっておりますけれども、過去5年とかそれよりもっと長いスパンで見てもやはり本市は、経済状況やそういったところで年ごとに社会増減なのでこぼこがございますので、こういった都市基盤の整備、こちらをしっかりと進めることによって、この4年間、常に社会増のトレンドを維持していきたいというところから、こういった目標値にしております。以上です。

座長

ありがとうございました。そうすると、基本目標①の2.2倍というのは、平日並みの滞在人口率。

事務局

そうですね。現在の平日が2.2倍です。

座長

平日の滞在人口率が高いというのは、大手メーカーの工場立地とかなり一致しています。構造としては、休日の滞在人口はほぼ観光関連とか商業施設の利用だとか、そういった施設に依

存すると思いますので、そういう意味では、場合によっては各集客施設の集客目標からもアプローチして、もう少し両方からのアプローチで精査してもいいのかなという感じがします。2.2倍というと、基準値の1.94からすると若干低めなのかなと。観光資源はたくさんありますので、そういう意味ではもう少し野心的な目標設定にしてもいいのかなという印象は受けました。

それでは続きまして、名簿順によりまして、富田委員お願いします。

富田委員

失礼します。

全体を見て、山本委員も言われたように、この前いろいろ発言した意見をうまくまとめてあると思います。

今、内田座長が言ったように、ちょっと目標値が控えめかなと思ひまして、これは私も同じような仕事をしているものですから、よく分かるというか、すごく悩むところでした、例えば目標は高くしたほうがいいのかと思ったりするところもあるのですけれども、それに対する毎年の見直しとか達成度みたいなことを出していくときに、あまりそれに乖離していてもどうなのかなというところがあるので、難しいなとはいつも思いながらやっているの、同じような悩みを持ってみえるのかなと思っております。

基本目標①の「地域資源とシビックプライドを核として」というところがあるのですけれども、これは最終的には、案である総合戦略が完成版になるのかと思うのですけれども、「シビックプライド」とか「インバウンド」という言葉が、我々はこの会議に出てお話を聞かせてもらって分かるけれども、たぶん高齢者の方や、あまり新聞などを読まれていない方は分かりにくいかなと思うのですが、これは注書きで入れていただくようお願いしたいと思ひます。

基本目標①でいきますと、資料3の4ページにあります清須学講座、これが本当に、県の朝日遺跡とか貝殻山貝塚もあるものですから、こういったことも一緒になって清須学の中に入れていただければありがたいと思ひますし、また、そういった講師とかには、うちの職員も出したいと思ひますし、また、うちの職員も貝殻山貝塚資料館だけでなく、清須のことを一緒に学んで、資料館に来た人にも清須の他のすばらしいものをPRできるような勉強をしていく必要があるのかなと思ひます。これは受講者のために枠があるものですから、このような設定でいいのかなと思ひました。

施策③観光アクセスの充実というところで、特にKPIは示していただけてないし、示すのは難しいだろうと思うのですけれども、マルの3つ目に「清洲城と清洲貝殻山貝塚資料館を結ぶ遊歩道の整備に向けた検討を進めます」と書いてあるものですから、本当にこんなことを書いていただけてありがたいと思ひますので、何とか頭出しできるような事業にお願いしたいと思ひますし、それに対して県として必要なこととか、後押しとかそういったことがあれば、前向きにしていきたいと思ひますので、ここは、KPIの数字は入っていませんけれども、記述していただいたということで、ありがたいと思ひます。

あとは施策の4つ目のWi-Fiのアクセス件数は、先ほど山本委員が言われたように、私も同

じことを思いまして、目標値の設定はなかなか難しいですけども、それにしても低いかなと思いました。

それから、Wi-Fiのアクセスの細かいことは分かりませんが、フリーで充電できるようなシステムもあるのかどうなのかと、個人的に思いました。

それから、基本目標②の「若い世代が子育てしやすいまちをつくる」というところですけども、こちらのほうはこれも特にK P I とかではないのですけれども、感じたのは「基本的方向」の「切れ目のない支援を推進し、出産に対する不安や負担の解消を図る」ということがありまして、これに対応する本冊のページを見ましたら、基本目標のすぐ下に「若い世代にとって暮らしやすく、安心できる地域づくりに向けて、安心して妊娠・出産・子育てができる環境を整備する」ということで、細かい施策になると思うのですけれども、どこからアプローチしていくのか分からなくて。出生数の現状維持というのがあるのですけれども、これに対する、現状維持がすごく難しいというのは分かるのですけれども、妊娠することの大切さとか、意味みたいなことを教えるようなことが、そんな啓発ができるような施策をお願いしたいと思ったところがございます。そこは特にK P I は関係ありません。

残ったところで、施策②の「子育て支援サービスの充実」というところだと思うのですけれども、資料説明の中で言ってみえたのですけれども、7ページの左上になりますけれども、放課後児童クラブの利用者数とかそういった数値は、必ずしも数値を上げることが良いわけではないというご説明がありましたので、そのとおりでか。ニーズを満たすから、必要があるからこういう数値にしましたという説明があったのですけれども、どちらかという、放課後児童クラブと放課後子ども教室というのがあって、児童クラブはたしか有料だと思いますし、親御さんが面倒を見られないとか、昼間に親がいない小学生を対象ということだと思っておりますので、これを増やすというのは、K P I 云々よりも、ここに掲げることがどうなのかなと思いました。充実させることは確かにいいことだと思いますが、ちょっとそんな感想を持ちました。

いろいろ細かいところですが、計画の中味を見ながら、そのようなことを感じまして、全般的に控えめな数値、確実に実行できるような数値かというふうに感じたところがございます。以上です。

座長

ありがとうございました。今、富田委員からもご指摘がありましたけれども、やはり目標値が基準値に対してどういう論拠があるのかということが、たぶん細かい数字を刻んでいくと、よりその論拠を求められる可能性があるかと思っておりますので、その辺は逆に言うと、もう少し丸めた数でも、というか比較的切りのいい数字で、やや高めに目標設定してもいいのかなという印象です。

それからあと、先ほど関連してお話をしたのですが、例えば清洲城の入場者数も、これから訪日客の誘客を強化していくということであれば、基準値の8万人強に対して目標値10万人ということで、国の2015年の訪日客は2,000万人弱でしたけれども、2020年、東京オリンピックの年には3,000万人まで目標値を上方修正するという方向性も出ていまして、1.5倍です。

国の方針として1.5倍ということであると、やはり清洲城の入場者も、訪日客なんかを取り込んでいくということであると、1.5倍というのは高すぎる可能性もありますけれども、やはり目標値としても少し高くてもいいのかなという印象を受けます。

あと、Wi-Fiのアクセス件数に関しては、基準値が3,000件強に対して12,000件という、数字を単純比較すると多めのような感じはするのですが、ただ一方で、外国人の入場者数、清洲城の1年間の入場者数の設定が3,500人ということで、この辺が多言語でのアプリとか、Wi-Fiを通じたアクセスなんかを想定すると1人4回というか、あと日本人観光客なんかも当然いるかと思えますので、そういう意味ではそれぞれの集客施設の集客目標に連動した形のほうが、論拠を説明しやすく、より現実的で達成可能な上限の数字が設定できるのではないかという感じを受けます。

それから、ハードの側面もそうですけれども、ソフト面というか、清洲城に関連のアプリやゲームの開発だとか、そういうソフトも含めて、誘客をするような取組というか、そういう方向もあっていいのかなという印象は受けました。

あと、先ほどの山本委員の指摘にも関連するのですが、4ページ目にも「きよすあしがるサイクル」の利用者数とかですけれども、これは「あしがるバス」のほうで、またコメントしたいと思えます。

それでは続きまして、北山委員お願いします。

北山委員

失礼します。北山です。

山本委員、富田委員が事細かくご指摘されたので、特に私のほうからということはないのですが、どうしても教育現場におりますと、KPIという、数値目標というのはすごくそぐわないところがありまして、どういうふうにこれをイメージすればいいのかなということで、ちょっと苦手なところなのですが。

設定するときにはやはり、これならクリアできるだろうということで設定するのか、何が何でも達成しなきゃいけないというところで設定するのか。そこら辺がどうなのかなと、素朴な疑問を抱きました。

特に、いろいろな工夫をすれば、例えば清洲城の利用でも、いろいろなところでちょっと工夫すれば動員をかけられますので、増えるのですが、出生とか子育て支援サービスのところとか、こういうところは、利用者数の目標値とかはいいのですが、受皿やその中味はどうなのかということに、どうしても頭が行ってしまうので、数値目標が妥当なのかどうかというところは教えていただきたいなという印象は受けました。

座長

ありがとうございました。これは全体に言えるかと思えますけれども、定量的な目標にとらわれ過ぎて、全体としての質的な充実がおろそかになるというのは全く意味がないのですが、一方でやはり、数値目標がないと惰性で行ってしまっ、定性的な目標にも到達できな

いという可能性はあるかと思しますので、やはり数値目標を設定することは非常に意味があるとは思いますが、それを達成するためにハード・ソフト面の充実というところが最終的な目標になるかと思しますので、よりこの数値目標を達成するための基本的な方向性と具体的な施策の充実というところまでつながるような、そういう流れになると良いかと思します。

あとは、数値目標に関しては、全体のモチベーションを高めるという意味もあろうかと思しますので、やはり、やや野心的なというか、達成不可能かもしれないけれども、少し高めな目標設定にしてもいいのかなという印象は、今の北山委員からの話からも感じました。

それでは続きまして、舟橋委員をお願いします。

舟橋委員

全体的なKPIについては山本委員が、最初に言われまして、それに追加することはなかなか難しいと思うようなご発言でありました。ただ、これを決める、数値を掲げるに当たっては大変、市の方は苦勞されたと思します。その点に関して敬意を表したいと思します。

ただ、全体で感じるのは、先ほど北山委員も言われましたが、比較的到達しやすい目標と難しそうな目標とメリハリを付けないといけないのではないかと。例えば清洲城の入場者に関してさっきも言われましたけれど、4年かけて努力すればこんな数字では意気込みが感じられない。4年かけて増やすのであれば、もっと多い数値目標にしたらどうかと思うのです。やればできる内容だと思します。

一方で、子育てのほうについてはなかなか難しい側面があると思します。とにかく若者が清須に増えない限りは子どもたちの数が増えないわけです。今後、高齢者が増えていく、それに伴って若者も増えないといけないということですから。

大体、総合戦略の到達目標は人口増です。総合計画は全体的なものだと思しますが、総合戦略の到達目標は人口増ですから、若者をとにかく増やさなければならない。そのためには住みやすいまちをつくる。括るとそういう一括りになると思します。

ですから、例えば、私が感じたのは、清洲城の入場者数は、先ほども言われましたけれども、10万人では意気込みが全く感じられないと思しました。

それから、具体的に言うと、観光アクセスの充実というところでも、「清洲城」のバス停の乗降者数が270人では全然話にならない。はっきり言って、そう思いました。ですから、もっと増えることを目指して、工夫をしていけば増えると思します。そういう目標値にしたほうがいいのではないかと思します。先ほども座長が言われましたが、外国人の清洲城への入場者数も3,500人では少ないと思します。

それから、創業支援事業計画というのが漠然と書いてあるのですが、これから創業ということが大変重要視されてくると思します。だから、それが妥当な創業なのかどうかということ判断するような仕組みも必要ではないかと思しました。

年間出生数については、これはあくまで、これまでの統計を取って出された数値なので、これが目標で良いのかと思しましたが、例えば年間出生数700人という数字と、次の6ページにパパママ教室の参加者数300人、病児・病後児保育の利用者数、目標値650人となっているの

ですが、こういう教室に参加する人をもう少し増やさないと啓発が進まないのではないかと思います。

それから、先ほどからも話題になっています放課後児童クラブの利用者数とか、放課後子ども教室の利用者数。これは、増やすべきものというふうに、なかなか素直には感じられないと思いました。何故こんなに多いのだろうという印象も持ちました。

座長

舟橋委員からもご指摘がありましたけれども、目標設定の数値に関してはメリハリを付けてもいいのかなという感じを持っていて、これまでの何回目かの会議でも指摘されているように、シビックプライドというところも強調していただいていますけれど、特に清洲城があるという、その辺りの歴史、文化的な背景も含めて、若い人材を育成していくという流れの中でするので、今回、2ページ目の基本目標のイメージ図、相関関係の図に関しても清洲城をモチーフにいただいていますし、やはりそういう観光面に関しては、やや達成不可能ではないかというくらい、少し高めな目標設定でもいいのかなという印象は受けました。

そういう観光面での地域ブランド、清須ブランドというものが認知されていけば、当然、若い居住人口の増加にも、交流人口の増加にもつながっていくと思いますので、やはり全体として、これも山本委員からも指摘があったように、全体のウエイト付けとして、ここを伸ばしていけば、具体的には観光面中心だと思いますけれど、全体にK P Iの数値目標の達成にもかなり貢献できるというか、けん引できる項目であるというところを、少し高めにしてもいいのかなという印象を受けました。

それでは続きまして、山田委員お願いします。

山田委員

私も、皆さん方にお話しいただいたような違和感を持ったのですが、今回の施策についても十分ご検討いただいて作られていると思いますので。

毎回いろいろなところで申し上げていますが、私も数字を扱う仕事をしていますので、数値を達成するというのは何のためにやるのか。これが目的ではなく、目標、指針ですからね。だから、今北山委員が言われたのは全く違和感ございません。

行政となると非常に難しいですね、数字って。何のためにやるのかという。そういう面で私は、最終的には今回のこの案にまとめられると思うのですが、熱い思いというか、例えば、私は基本的に思っている清須が好きだという発言は、ずっと忘れず残っているのですよ。それをどう実現するかですね。地域に住んでいる方が地域を愛していくよと、そのためにこういう材料があるじゃないか、こういうこともあるじゃないかということをみんな認識して、ただ数字の目標を達成するわけではなくて、やっぱりこういう施策を進めたらこういうことが認識できたというようなことを実感できるようにするといいなと思っています。

だから、この施策をまとめられるときに、数字は確かに目標であって、目的はこういうところにあるよと、こういうことをしたのだと、だからそれを表すために数値化をするとこうだよ

という、この順番ですよ。これを間違わないように表現していただくことが、非常に重要ではないかと思っています。

ですから、皆さんに説明するときに、本当はこうだよと、こういうことをやるために一つのポイントとしてこういうので表現するとこうなるのだよと、そんなような組立てですね。これをやはり、地域の住民の皆さんに共感いただけるような施策として打ち出すと非常にいいなと思っています。

我々もそういう仕事をやっていますので、数字、ノルマとかよく言われるのですが、これは実は同じことを言っているのです。数字を達成して、実際本当にどれだけのことができたか。そうなってくると、数字を達成するためだけのことを、命をかけてやる。これは軸がずれません。だから、そういうことを一つ目線の中に置いていかないと、筋がずれてはせつかくのことがムダと言ってはおかしいのですが、違う方向に行ってしまう可能性が十分あるのではないかと思いますので、それを感じたということです。

あともう一つ、施策としてあとのところにも関連してしまうのですが、例えば観光客を呼びましようということがあるのですが、やっぱりコラボですね、いろいろな施策が連携して、この目標を達成するためにいろいろな施策をコラボしてやりますというようなことが、リンケージして施策に出てくるということなので、我々も苦しんでいるのですが、情報の共有化です。例えばこういうものをやると、これだけの数字が行く。だけど、こっちのほうもやっている、だけど一体全体どのようなことをやっているのか。市全体で認識するような工夫もしないと、一体全体何をやっているのか、部分だけのことをやっている、部分の人たちが報告をするためにやっているということになると、これも非常にもったいないと思いますので、こういった工夫をこれからいろいろな面でやっていく必要があるのではないかと思います。

そうすると我々が気づきしれないところでこんなことをやっているのか、こんなふう結び付いているのだ、というようなことも必要ではないかと思っています。

それから、観光面でWi-Fiとかこういったものの整備。これは非常に重要なことだと思っていますが、もう一つ、これはちょっと違う軸になってしまっていて発言はどうかと思いますが、例えば先生もおっしゃいましたように、3,000人を目標にしましょうと。このエリアでも愛知県も観光客を伸ばしましょうとやっていますよね。そのインフラですよ。例えば宿泊とか、買物する場所とか、現実問題、尾張部で一部のビジネスホテルが満杯です。そうすると、それが波及していろいろなところに影響してくるケースがありますので、こういったことは名古屋市に隣接しているので吸収できるのではないかというのはあるとは思いますが、これも一方で考えていかないと、そういったものを呼んで、何をしてもらおうのかということになると、これも我々としては考えておかなければいけない。買物していただくというのだけれど、例えば清洲城ってこうだよとお知らせするというのと、買物客、そういうものを通じて目的で来られた方もおられるわけですし、そういったものを迎え入れるようなインフラも、これは大きな課題ではありますけれど、これも一つあるのかなと思います。

根本は清須に住んでおられる方がまず、シビックプライドという言葉を使って書いておられますけれど、これをどう実現していくかということで、外の力をどう使っていくか。この辺り

は間違えないように、議論をしながらやっていく必要があるのかなという、そんな印象でございます。

実際、個別の中で数値目標、おっしゃるように非常に難しいですね。富田委員が言われるように、我々も実感していますけれども、数字となると未達度がどうだとなってくるのですよ。何故こんな数字出したのかということ、我々もやっていますからね。非常に難しいのですけれども。こういったところのせめぎ合いをやりながらも、本質的なところにつなげるような組立てをやっていく必要があると思います。

全体としてはどうしても控えめになりますよね。何故かという、実績をベースにやりますのでそうなるわけですから。だから、枠組みを全く変えてチャレンジするのだと。なので、先生がおっしゃいましたチャレンジする目標というのは十分あるのですね。例えば目的を達成するためにこの目標をやりましょう、その目標を達成するためにこの枠組みがいるのです、というようなことを説得力を持ってやるには数字が非常に機能するわけでございますので、こういったことですから、個別事案はいろいろ数字の中にはあると思いますが、全体的にはどうしても控えめになってしまうという印象を持っています。

座長

ありがとうございます。山田委員もおっしゃっていますけれども、最終的な目標は交流人口を増やして、最終的には定住人口、若い人を中心に増やすということですので、全体の基本目標の大きな幹から、個別の数値目標、項目までいってしまうと、枝葉のほうに入り込んでしまって、全体の目標が逆に見えなくなってしまうということもあります。その辺の軸は維持しつつ、やはり個別項目についても、それぞれ、その項目が妥当かどうかということもありますけれども、目標値についても、ある程度の論拠がないと、数字に左右されてしまって最終的な目標への到達もできなくなってしまうのかなという印象を受けております。

あと、先ほど富田委員からもありましたけれど、「シビックプライド」だとかのカタカナ文字に関しては、シニア層を中心に理解ができない可能性もありますので、その辺も少し分かりやすい説明が必要なのかなと思います。

あと、事務局から回答ができるようであれば、先ほど私失念してしまったのですが、富田委員から放課後児童クラブの利用者数について妥当かどうかという問題提起がありましたので、また全体1巡目が終わった後で、回答できる部分があればお願いしたいです。

それでは最後に平野委員お願いします。

平野委員

はい。今各委員から発言がありましたので、私もそのように思います。今回、数字として出されてきたわけですね。それぞれ数字が出てきております。基本方向というか、それに向かっていろいろな施策が考えられて、それをあえてこの数字が出てきた。そういうふう思うのですけれども、目標というところで、これから絶対この数字が達成しなくては清須としてダメだという目標なのか、希望値なのかというようなところが、先ほどの説明では休日の滞在人口率

の向上というのは平日並みに休日をやりたいというようなことで、それが考えだということでした。

ただ、清洲城の入場者数というところの8万人から10万人という数字を出されていますけれど、数字にこだわらない、あまりこだわり過ぎるのはいけないというご意見もありました。私はそのご意見はそのとおりだと思いますけれども、10万人という数字を出されるのは、これこれのこういうことをするのでこれだけの人数なのだという、その背景というか、数字を出された基になる考えをもう少しお聞きしたいなというところがあります。

それから、年間出生数の現状維持。具体的になりますけれど、これは平成18年から平成27年の10年間における平均値、700人、これを目標にされるということなのですけれども、イメージで言うと平成18年から27年というのはだいぶ下がってきているのかなと。下がっているけれども、その平均値まで目標値を持っていくというところが、その考え方をお聞きしたい。いわゆるただ単に平均値を取ることで自体が妥当なのかどうかというところですね。平成27年の数字から向こう4年間ですか、その数字を目標としたときに、その数値そのものが非常にハードルが高いものなのか、というようなところです。ちょっと気になりました。

全体的にはそれぞれにまとめていただいているので、気になったところを申し上げました。以上です。

座長

ありがとうございました。最後、平野委員から指摘があった、数値の時系列の推移については、事務局、今お答えできるようであれば。

事務局

出生数の部分で、推移としては細かいデータは人口ビジョンのほうで取りまとめておりまして、資料5の人口ビジョンの本冊で9ページをご覧いただきたいと思うのですが、その中で、出生、死亡、自然増減数の推移ということで、1980年からずっと並べておりまして、白黒で見にくくて申し訳ないのですが、上のほうの棒グラフですね、出生のところが年間の出生数というところで、こちらについては過去10年くらいを見ますと大体700人くらいのところで推移しているというところがあります。あと、こちら、今後4年間もこの数字を維持していくというところにつきましては、この人口ビジョンで最終的には2060年に68,000人以上確保していきましょうというところがあるのですが、そこの理想の人口に持っていくためには、向こう5年間を考えたときにも、この700人という数字をしっかりと維持していければ、さらにそれをもっと持続していかないといけないのですが、まず足下の5年間としてはこの数字を維持していけば、今理想としているグラフに乗っていけるというところがありますので、こういう数字を目標としているというところでもあります。

座長

ありがとうございました。出生数に関しては、9ページ上段の出生数の推移を見ると、ここ

10年もしくは5年くらいを見ると、特に5年くらいを見ると少し落ちてきているような傾向もありますので、こういうデータを見ると700人でもぎりぎり達成可能な水準かなと思いますけれども、過去5年くらいで見ると740～50人くらいある年もありそうですので、そういう意味では、直近の時系列の推移なんかがあると、目標設定の妥当性というか、分かりやすい可能性もあるのかなという感じは受けます。

あとは、1巡しましたが、先ほど富田委員からご指摘がありました、有料施設、放課後児童クラブの利用者数の目標設定については何か。

事務局

ここのK P I自体はやはりこちらとしても難しいなというところはそもそも思っております。当然、数字を上げること自体が目的ではないというところはありますので、ただ、ニーズをしっかりと満たしていくという意味で、いったん今は案としては掲げております。特に放課後児童クラブでありますとか、放課後子ども教室。こちらの目標値の根拠としても、年々増加しているというところもありまして、特に放課後児童クラブについては、戦略期間中の4年間に児童館を拡充するような計画もあったりして、そういったところでさらに需要が見込まれるのではないかな。逆に、その需要をしっかりと満たしていくというところでの、所管課とも調整して、目標値の案としては、この数字で整理させていただいているというところでございます。

座長

ありがとうございました。

1巡目がこれで終了しましたけれども、各委員からのご指摘、全体の数値目標、数字が出てくるとやはりその論拠を求められがちであるということと、あとは、定量的な目標にとらわれず、定性的な目標、全体の目標とのつながりの部分というか、少し説明があったほうがいいのかという印象を受けました。

あとは、全体としての印象として、メリハリが利いた、特に観光面、個人的には観光資源に関連するような目標数値に関しては少し強気の数字に修正してもいいのかな。それぞれの集客施設の達成可能な集客目標という形で、そういったものからマクロだけではなく、ミクロなアプローチも併せて実施して、数値を修正するところがあれば修正してもいいのかなと思います。

2) 基本目標③・④の「数値目標・K P I」及び進行管理について

座長

それでは続きまして、2巡目にまいりたいと思います。2巡目につきましては、同様に基本目標③と④のK P Iと数値目標を中心にご議論いただきたいと思います。さらに、進行管理の関連についても併せて各委員からご意見を頂戴したいと思います。

それではまた、同じ順番で恐縮ですけれども、山本委員からお一人5分程度を目安にご発言をいただきたいと思います。よろしくお願ひします。

山本委員

山本でございます。よろしくお願いいたします。

先ほど、舟橋委員や山田委員からもありましたとおり、そもそもこの目的は定量的には人口増であり、定性的にはシビックプライド、清須が好きだと皆さんに思っていたことだと考えています。

さらに、そういった意味では、K P Iにつきましても、ストレッチしたK P Iを設定するものと、手堅く設定するものとに分かれてくると思います。

そういう意味では、内田座長がおっしゃいましたように、基本目標①についてはどちらかというとストレッチをして、②・③・④については手堅くいくというのが、最終的な目標に近づいていくのかなと私は考えています。

その考えでいきますと、基本目標③あるいは④につきましてはこの内容、K P Iで全く問題ないと思っております。逆に、これの達成ができれば、最終的に人口増加であったり、あるいはシビックプライドの醸成につながっていくと考えております。

細かい部分で1点だけ申し上げたいと思うのですが、11ページ、施策④公共交通の充実という部分です。

こちら、「安心・安全で快適に暮らせるまちをつくる」という基本目標に沿うということでは、公共交通の充実というのもこちらに入るのでありますが、同じ「あしがる」という名前の付いた「あしがるサイクル」と「あしがるバス」の括りが分かれているところに違和感を持っております。確かに市民の皆さんが使われる公共交通が「あしがるバス」であることは確かなのですが、同時に観光客にも使っていただくという部分になれば、基本目標①の中でバス停「清洲城」の乗降者数と挙げられましたが、こちらを必ずしも生かすのではなくて、「あしがるバス」の1日当たりの利用者数、清洲城を通るオレンジルートですかね、の目標値とすり合わせるということでもいいのではないかと考えます。

あと、サクラルートにつきましては、こちらの資料で基準値より目標値のほうが下回っており、上方修正するとおっしゃっておられました。審議会を踏まえての設定になると思うのですが、オレンジあるいはグリーンと同じくらいな上げ幅になるのか、それとももっと上なのか、あるいはもっと控えめなのか。その辺、もし方向性が分かれば教えていただければと思っております。以上でございます。

座長

最後の「あしがるバス」の乗降客、利用者数に関しては私も先ほど言いかけたのですが、かなり観光面での貢献も大きくなってくると思いますので、もちろんシニア層の利用も大事だと思いますけれども、そういう意味では、これを両方に入れるのか、あとは観光のところでピックアップして特出しして、その後に併記をするか。その辺の位置づけは考えていただきたいと思うのですが、これに関して、清洲城を通るルートはオレンジルートですか。清洲城とか朝日遺跡とかそういった、これから集客を強化していこうという施設を通るルートに関しては、名駅から直接アプローチするルートがないとすれば、やはり名駅からの外国人訪日

客の誘客に貢献できるような、そこのルートに関しては前提条件を変えていけば、もう少し高めの設定にもなっていたのかなというふうに思います。

あとは、山本委員ご指摘のようにメリハリを付けていくという意味でいうと、後半の特に②、③、④については少しかためということで、私もよろしいかと思えますけれども、シニア層、高齢者に関しては、清須学への参加者とか設定されていますけれども、高齢者がそういう社会参加をしつつ、若い世代に対して交流をするような場面での目標設定があるといいのかなと思います。これについては事務局からは何かありますか。

あと、山本委員からのご質問のサクラルート、そこに関しても、もしお答えできるのであれば。

事務局

サクラルートの目標値につきましては、公共交通会議で検討しておりまして、少なくともオレンジ、グリーンの今の5.6～5.7人よりは高い、6人以上というか、もう少し高い目標値を掲げていきたいと思っております。

座長

ありがとうございます。そうですね、やはり、確かに公共交通機関ということでインフラではありますけれども、観光資源を回るようなルートについては、前のほうに目出しをしておいてもいいのかな。私も「あしがるバス」「あしがるサイクル」が分かれているところに若干違和感がありましたので、観光アクセスにも当然重要視される部分があると思いますので、転記というか併記についても、今後また、ご検討していただきたいと思えます。

それでは続きまして、富田委員お願いします。

富田委員

施策③、④については、特にK P Iとか目標値はあまりいらんと思うのですがけれども、もしあるとすれば、今の「あしがる」。12ページの「あしがるバス」のところで、認知度を89%から90%へと書いてあるので、ここは達成を考えたときにどうか分かりませんが、目指すのは100%でいいのかなと、ちょっと思いました。

それと、先ほどの発言の時に、うまく発言できなかったところが7ページの下の2つ、育児環境の整備というところで、妊娠期がどうかその時にも言っていましたけれど、僕が思ったのは、「妊娠期から子育て期までの」という部分を取り除いて、「妊娠・子育てに関する行政サービスの」というふうにしてしまえば、修正前・後も、「義務教育終了時」というところを「子育て期」とか修正をしていただいたのですがけれども、これも取ってしまえば別にいいのかなと思って、「妊娠・子育てに関する行政サービスの案内や」から始めれば、特にどこどこに限る必要はないのかなと思ったような次第です。

というのは、妊娠する前から「妊娠ってどんなものかな」「妊娠したらどうなのかな」とか、そんなようなことを思う人もいるので、そういう意味があって、ここを取ってもらったほうが

いいのかなと思ったところです。

あとは、8ページの「高齢者の社会参加の促進」というところで、清須学歴史マイスターの認定数、これはたぶん、40人というところの半数は60歳以上の高齢者の方でということ、挙げていただいたと思うのですけれども。こちらがいいのか、清須学講座の160人の受講者のうち半数の80人と悩むところで、マイスターのほうがいいのか受講者がいいのか、どちらでもいいのか、悩んだところであります。

あと、これは自分に知識がないからかもしれないですが、ちょっと分からないところが1つありまして、10ページの「地域防災の担い手の確保」というところで、マルの2つ目ですけれども、「非常備消防力」というのが分からなかったのですけれども。これはどういう意味か教えてほしいと思います。以上です。

座長

まず、非常備消防力について説明をお願いします。

事務局

非常備消防力は、常備消防力というのはいわゆる市の消防署というか、うちですと西春日井広域事務組合というところで処理をしていますけれども、市がやる消防に関してのもので、非常備消防力というのは地域の消防団ですね。消防団の活動のことを指しているというところで、ここはあえて地域というところで非常備消防なのですけれども、常備消防は当然なので、非常備消防というところは地域でしっかりやっていくということから、こちらへ位置付けております。

座長

この地域というか東海3県では、消防団の維持に苦勞しています。

今の富田委員からのご指摘の中では、先ほどの1巡目の範疇に入りますけれども、「妊娠期から子育て期までの」。確かに表現が二重になっているような感じはありますので気になりますけれども、表現を検討していただければ。

あとは、それ以外の部分で、「あしがるバス」の認知度については、確かに基準値89%というのは高いというところもあるのですけれども、目標値100%というのは、実際には現実的に難しいかと思しますので、10ポイント上げて99%とか、あるいは95%といった形にもう少し引き上げて良いと思います。確かに1ポイントの目標値の引上げというのは、印象としてはかなり低く感じてしまいますので、その辺に関してはまた数字をご検討していただければと思います。

では続きまして、北山委員をお願いします。

北山委員

基本目標の③と④というところですが、具体的には特に、皆さんがおっしゃられた話をなる

ほどと思いながら聞いていたところなのですが。

高齢者に関するお話で、高齢者の方がいきいきと活動的に暮らしていけるというところに若い世代とのつながりということで、自分の学校では、朝日遺跡や清洲城の総合学習を立ち上げたのですが、高齢者との交流授業というものを昨年からやっています、それは本当に良くて、そういうことを立ち上げようと思ったとき、何もないものですから、自分でいきなり社会福祉協議会へ行って、こんなことできるでしょうかと言ったら、市の老人会、寿会のほうに話を通していただいて、割ととんとん拍子で話が進んだので、やはり何でも思いついたものは、とにかく役所へ駆け込んでみるものだなと思いました。ただ、やはり受け皿があると、学校はすごくやりやすいのですね。ゼロから開拓していくと、こういう文書をまず作ってくださいとか、そういうようなことを言われて。そのようなことはいくらでもやるのですけれども、でも、実現してみるとすごく良いので、受け皿があるといいなと思いました。

講座を開いてマイスターをシルバーの方で半分を占めるという、これも良いのですけれども、じゃあそれをどういうふうに学校などが利用していけるかというようなところを、分かりやすくやっていただけるといいなという感想です。

私も、富田委員がいろいろお話しされて、見ていたのですけれど、清須学講座の受講者数というのは、160名という数値があるのですが、この講座を受ける人が全員マイスターになれるわけではないですね。マイスターの認定数は40人、その40人の中にシルバーが20人ということは、何らかの制限はあるわけですね。

座長

制限というか、あくまで受講者ですね。マイスターになるために受講するわけではない。

北山委員

ではないということですね。そうすると、受講者数ってこんな少なくていいのかなと、急に思い始めたのですけれど。マイスターを養成するための受講ではないわけですね。あくまでも。

座長

認定された人が常にその年度から、初年度からすべて機能しているというわけでもないかもしれないけれども、160人という受講者に対してのマイスターは大体何人くらいですか、大體で。

事務局

それぞれ累計ということで、講座の受講者は、大體年40名くらいで、そのうち10人くらいがマイスターになっていただくことを想定して、4年間で40名という考え方になっております。

座長

受講者数は年間で40人。

事務局

受講者は40人。マイスターは年10人ですね。

座長

清須学講座というのは、年間の回数としては。

事務局

年間の回数は、まだ検討中なところもあります。ただ、5回とか6回とかですね、ある程度このコンセプト自体が地域の歴史や文化を体系的に理解していただくというところですので、そういったところから、いろいろな切り口が必要ですので、それに必要な回数はしっかりやっていきたいなというふうには思っております。

座長

そうすると、1回当たりの受講者数が少ないのかなという印象があります。北山委員からご指摘あったように、清須学講座で、シニアマイスターのような方が小中学校に行って社会科授業をやるようなケースであれば、人数は少なめということになっちゃいますよね。ですから、シニア層を若い人材に向けたシビックプライドの醸成に関して活用するというところを前面に出していけば、もっと受講者数もかなり飛躍的に上がっていくのかなという印象を持ちました。すみません。

北山委員

私もちょっと、いろいろ見比べて、なんか市民講座のようなイメージを抱けばいいのか、マイスター養成講座というふうに捉えればいいのかというところが分からなくて。

実際、高校に1学年に小グループの中に高齢者の方に入っていていただいて交流授業をインタビュー形式で行うわけですけども、そういう授業をやるだけでも延べ70人以上の高齢者の方が学校へ来ていただきました。本当にもっともっと使ってほしいという意見をいただいたので、こういう歴史学を学ぶというところでも来ていただけるとすごくいいなと。出ていくことも必要なのですけれど、来ていただけると、お迎えするということで、すごく学ぶことができるので。

認定した後、どういうふうにそれを生かしていくかということも大事なことかと思えます。

あと、「きよすあしがるバス」は、私もすぐ100%と書いてしまって、富田委員が言われたのですが、座長さんが100%は難しいと言われたので、やはりそういうものなのかなと思いました。

朝日遺跡の認知度のパーセンテージも富田委員さん、出されていますよね。それで見て、本

当にこれだけあるのかなと思いつつ、こんなに少ないのかなといつも思っているのですが、やはり、清須市内では絶対100%にしなくてはいかんと。朝日遺跡、私も思っているものですから、高く立てていただいたほうがこれはいいかなという、これも感想です。まとまりがなくてすみません。

座長

最後の「あしがるバス」の認知度に関しては、100%というのは統計上かなり厳しいということと、あと、やはり清須市は通勤族も結構いますので、ほぼ名古屋と往復だけをしているような人もいますかと思えますので。ただ、目標設定としては100でもいいかもしれませんが。

先ほどより出ておりました清須学歴史マイスターに関しても、新しく事業開始する制度ということで取り上げていただいているのだと思えますけれども、実際にはマイスターとまた別に、マイスターの認定を受けていなくても小中学校で社会科授業をしているようなシニア層もいるかと思うのですが、人数として稼げると言ったら変ですけども、そういう数値目標なんかも少し大きめに出るようなKPIを設定してもいいのかなという印象は受けました。

それでは続きまして、舟橋委員をお願いします。

舟橋委員

高齢者の要介護率を引き下げるというのは、高齢者の人口が増える中で、できるだけ下げていくという、抑制するというのは大事な事かなと思うのですが。

それから、シルバー人材が減っているということについて、高齢者は増えているのに、会員が減っているというのがちょっと気になりました。

いろいろな点でそうなのですが、PDCAのサイクルから考えると、やはりチェックする機能が働かないと、どこがいけないかというのを少し探ったほうがいいのではないかと。シルバー人材は、増えて当たり前だと思うのですよ。

それから、市民協働の推進という項目ですが、この下に拠点づくりの説明がありまして「相互の情報交換・交流の促進に資する拠点づくりを検討します」と書いてあります。大抵こういう文書に書かれるとき、よくこういうことが出てくるのですけれども、多分やらないのかなと思ってしまうのです、はっきり言って。すみません、言い方は雑な言い方で申し訳ないです。

拠点づくりがすごく大事だということは、ワーキンググループでいろいろ話したときに、すごく意見として出たのです。そういう意味から、その1行下の「市内部の推進体制のあり方を検討します」ということも含めて、もう少し前向きな書き方をしておいたほうがいいのではないかと。本当にやるのだなと思えるような言葉にしたらどうかと思いました。

それから、9ページの「地域包括ケアシステムの構築を進めます」という説明があるのですが、これもやはり、地域包括ケアシステムが見える形で、そのものを組織化すべきだろうと思えますので、ちょっと追加のことで申し上げました。

それから、その下の官学連携のことについて、「らく楽」のことしか書いてないので、例え

ば認知予防についてだとか、あるいは市民公開講座を今、年2～3回しかやっていませんが、これを10倍に増やすとか、そういうことも検討しています。認知に関してはすでに取り組んでいますので、4年後にはかなりの形の整ったものができると思います。官学連携協定を結んだだけで、何もやってないと思われると非常に悔しいので、そういうこともぜひ追加してほしいと思いました。

それから最後、また「あしがるバス」に行きますが、これだけ認知されているのに、たった15～6人しか乗らないということですね。では、何故かと。便利でないからですね。便利でないというのは、何故かと、時刻表を見せてもらいますと、なかなか利用できないのですね。ですから、公共交通機関として重要視する、清洲城へのアクセスもこれを活用するということであれば、もっと、ダイヤ、バスの台数を増やすとか何かしないと、利用する人は出てこないのではないかと思います。

いろいろなことを言っているとお金のかかることばかりになると思うのですが、大丈夫なのですか。とってしまいます。一つひとつ全部お金がかかるので、大変だなと思います。

この認知度からして、利用者の少なさは異常だと思います。みんな知っているのに使っていないわけですから。それを何とか使ってくれるようにと思います。以上です。

座長

ありがとうございました。シルバー人材センターの会員数のところのご指摘をいただきました。ひょっとしたら、より高齢化しているというようなことかもしれませんし、その中でまた会員の登録が減っているということなのかもしれません。何かこの背景とか理由についても、ちゃんと解説したほうが分かりやすいのかなと思いました。

目標設定について、これは妥当な目標値なのだというのは、ここに限らず全ての項目で説明は分かりやすくする必要はあるかと思いますし、場合によっては、近年の傾向、例えば減少傾向であるというような数値的やグラフといったものが、参考として付記してあると、よりイメージしやすいのかなという印象を受けました。

その下の、8ページの拠点づくりというところで、これもハードよりソフトが重要、仕掛けが重要ということになると思いますが、場合によっては市民協働ということでボランティア団体の活動ということであれば、先ほど北山委員からあった小中学校でのシニア層の社会科授業とか、そういうところも実際に交流、しかも若い世代とシニア層との交流ということなので、場合によってはこういうところに入れておいてもいいのかなという印象を持ちました。

官学連携についても、市民公開講座のご指摘がありましたので、そういう点も検討していただきたい。

最後は「あしがるバス」のところですが、確かに認知度が高くて利用されていないというのは、不便ということもあるかもしれませんが、やはり、清須に限らずクルマ社会で、ほとんどシニア層の方も、これよりも軽自動車とかマイカーで移動するケースが多くなっているのだと思います。やはりこの辺も、訪日客を増やしていくということになると、訪日客は当

然、公共交通機関を中心に利用されますので、そういったところへのホームページとかアプリでの対応をしていけば、少なくとも清洲城を巡るようなオレンジルートに関しては、もう少し高めの目標設定もできる可能性がありますし、朝日遺跡だとかそういったところの情報発信と「あしがるバス」との連携というところも強化していただきたいと思います。

それでは続きまして、山田委員お願いします。

山田委員

先ほどちょっと触れさせていただいたことと関連するのですが、私たちがこういったことに関わってくるときに、議論するとどうしても数値が、どうしても数値になってしまうのですよね。

やはり、山本委員が言われたように、分類分けをして、例えばインフラ整備だったらこれは数値目標でやりましょうと。当然今、予算の制約もあるし、だからこの期間でこれだけやりましょうと、これはやはり見積もって、それで進捗度合いを確認するということは極めて重要なファクターだと思っています。

せっかくこういった施策を市の予算を組んでやっていただけるわけですから、やはり共有化ということで、見える化ということをやっているのですが、市民の方々にやっていることをきちんと見てもらう。それが、やっている側も緊張感になりますよね。言っているのだけれど、ここまでしかやってない。そういったことはやはり、総合戦略の中へ入れていく必要があるのではないかと思います。

それと、細かいことになって申し訳ないのですが、基本目標③の要介護認定率の抑制というところの数値目標で、要介護認定率の算式はどういう算式でしょうか。教えていただきたいということがありまして、こういったもので、これから高齢化社会に至ったときに、何をそれに対してアプローチしていくか。極めて重要だと思っています。今、認知の話が出ましたけれども、このままいけば社会問題にこれからますますなっていくということになりますので、そういったことにどう対応するかということについても皆さん方に認識いただく。そういう面では、見える化を皆さんにさせていただいて、これだけのことをやっているよということについても重要ではないかと思っています。

それから、今、北山委員からお話があった学校へ高齢者の方に出張講座という形で来ていただくという取り組みについてですが、高齢者の方々は、今までビジネスや行政など関わってこられた蓄積があります。蓄積をどう地域の方々に還元していただくかということは、大変重要です。私は個人的にいろいろ関わっておりますが、そんなふうにご考えておられる方も実に多いです。高齢者の方の中には、地域の役に立ちたいということで、個別に実践しておられる方もみえます。ですから、社会的な制約とかいろいろなことがあるから、それが解消されたら、地域のためにやるぞという方たちはたくさんおられますので、そういった方々の力を地域のために還元していただくということは極めて大事だと思っています。

そういったことを、私たちの大先輩とお話ししていると本当に思いますので、ああいった方々の力を生かすことが日本にとっても非常に問題だと思っていますので、これも我々の知

恵の中でやる必要があるのかなと思っています。

参考までに申し上げますと、我々の業界の中でもシニア人材をどう活用するのかについて、具体的にやりました。ビジネスマンとして、これまでの日本を支えてきて、これだけの知的資産や成熟した社会を作っていただいた皆さんの力を今のビジネスの中に生かしてもらおうということで、今マッチングをやっています。非常に大きな力です。全国から我々のところに手弁当でおみえになる方もおられるのです。そういった力を感じますし、必ずこの地域にもおられると思いますので、そういった方々の力をどう還元いただくかということも、我々の知恵と工夫が必要ではないかと思っています。

そんな印象でございますので、数値が必要なものと、それだけではなくて、それ以外のものもあるということも忘れず、ポイントを絞りながら、優先順位と重さを見ながらやっていく必要があるかなと思っています。

座長

ありがとうございました。やはり、特に交流の部分ではシニア層のストックしてきた知識を還元するような、そういう仕組みは、全体での数値目標に限らず、拡充して行っていただきたいと思います。

先ほど舟橋委員のところ、シルバー人材センターの会員数が減少しているというところで、勝手に僕のほうで推測で答えてしまったのですが、事務局から減少している背景について、もし現時点で分かるようであればコメントいただきたいと思います。

事務局

ちょっと今、手元で持ってなくて申し訳ないのですが、市の高齢者福祉計画というのがございまして、その中でも一つの施策として、シルバー人材センターの人材確保という中で問題認識として、実際数字としても定員が減っているというところと、やはりそこを確保していかなければいけないというのが高齢福祉計画の中でございますので、そちらと目標を合わせる形で、戦略でもしっかり続けたいというところがございます。

あと1点、一つ修正をさせていただきたくて。先ほど舟橋委員からご指摘いただいたときに気づいて、申し訳なかったのですが、「あしがるバス」の利用者数なのですが、1日当たりで15人くらいというところで、ちょっと少なすぎると思って、すみません、ケアレスミスで申し訳なかったのですが、1便当たりの利用者数として、各ルート大体6便くらいございますので、1日当たりは大体100人くらいは利用されているというところがありますので、すみません、単純なミスで申し訳ないですが、訂正をしておきます。

座長

それぞれ6便ずつ。オレンジルート。

事務局

厳密に言うとオレンジルートは6便で、あとのサクラとグリーンが10便です。

座長

10便。ありがとうございます。

あと、平日と休日というか、その辺の利用の割合というのは。すぐには数字は出ないかもしれませんが、感覚的にはどちらが多いですか。

事務局

「あしがるバス」につきましては、基本的に、平日・休日の利用者数の差というのはあまりございません。

今までのご議論の中で、「あしがるバス」について何度か触れていただいておりますので、これについてちょっとお話をさせていただきますと、基本的に現在の「あしがるバス」のコンセプトは、高齢者の方の足になるということです。交通弱者といいますか、クルマ社会といわれる中でも、車を持ってみえない方々を中心にケアしていこうということで、「あしがるバス」が立ち上がっております。

「あしがるバス」とレンタサイクルのところの区分が、基本目標①と③に分かれているという点でございますが、そういったコンセプトの「あしがるバス」等々の利用促進をしていくという趣旨で、基本目標④に入っております。

とはいっても、こういった地方創生の中で、観光についてもこういったものを使わない手はないということで、今回新たに考えさせていただいております事業等については、基本目標①のほうへ入れるという整理で、基本目標①と④に分かれて入れているというような経緯がございます。

座長

基本目標①には「清洲城」のバス停の乗降客ということで、ありがとうございます。

やはり地元のシニア層については、基本的にはマイカー移動で、本当の高齢者を中心とした人たちの利用が多いということなのですけれども、やはり観光面で、基本目標①のほうの清洲城の集客とか、あと、バス停の利用の目標設定がこれでいいのかという問題はありますけれども、この辺はもう少し精査して見ていくと、分かりにくい部分があるかと思っておりますので、仕分けというか、表現を変えるなどの検討をしてもいいのかなと思っております。

それでは最後になりますけれども。

山田委員

ちょっとすみません。要介護認定率の算式は、どういうものですか。

事務局

はい。いわゆる介護保険の1号被保険者、65歳以上の方に対する要介護認定を受けている

方の割合です。

山田委員

ありがとうございます。何故ご質問したかというところ、数値目標を悪用されるとですね、認定が必要な方のランクダウンということにつながる恐れがあるので、ちょっとどうかなと思ったものですから。数字の難しさがそういうところにあるのかなと思います。社会的要請はそうです。もちろんそうです。ただし、本質と違うところで使われてしまうということも、リスクとしてあるので、これをどういうふうにするのかなというところなんです。

座長

これを抑制するというのが悪用されるというふうには。

山田委員

必要とされる人について、行政はそうやっておっしゃっているけれども、現場で数字を合わせるために、どうしてもそういったことが起きるリスクがないんですかねという感じがしてしまったものですからご質問したのですが。

舟橋委員

この「要介護認定率の抑制」という言葉に違和感があります。抑制しながら15.6%が17.5%に上がっているというのが。抑制というのは、認定しないようにしようというふうにしてしまうのですね、この言葉を。で、見たら上がっている。

だから、とにかく市は認定しないようにしようと思っているのだと取られても不思議はないです。

座長

そうですね。ここについては恐らく、高齢化率を考えると、通常でいくともっと高くなるところを、17.5というふうには抑えるということですね。

舟橋委員

はい。そうだと思います。これだと認定率を抑えるのだというふうには取れてしまう。

座長

目指すべきところは健康寿命を延ばすということなのだと思いますけれど、逆説的な数値目標で、果たして、今、山田委員からもご指摘があったように、あえて自治体が、これを目標にして抑えるという印象で受け取られるとちょっとまずいとは思いますが。この辺の表現について、あと数値目標の項目についても一度、再検討というか、検討していただくと良いと思います。

それでは最後に、平野委員お願いします。

平野委員

細かい話ですけど、8ページのシルバー人材センターの会員数が減少傾向だということで、増やしていきたいと。目標値が456人と、1桁台まで数字が出していただいていますけれど、この理由というか。簡単にいうと450人とか500人とか、そういうことでもいいかなと思いますが。その理由は何かありますか。

それから、10ページになりますけれど、一番下に「新規整備や既存の雨水ポンプ場の長寿命化を推進します」ということなのですけれども、具体的にどういうことをやって長寿命化をしようとしているのかをお聞きをしたいです。

それから、一番最後ですけれども、4番目の「進行管理」というところで、この中に総合戦略推進会議を活用して意見を聴取するとあるのですが、具体的に、この後、スケジュール感でいうと年に何回くらい開かれる予定かどうか、そういう具体的な検討がどこまでいっておられるか分かりませんが、ちょっとお聞きできればと思います。以上です。

座長

3点についてご質問ありましたけれども、シルバー人材センターの会員数の456人の目標値の根拠についてということと、あと、雨水ポンプ場の長寿命化、これが具体的にどういう施策を想定されているのかということと、最後に推進会議の活用についての具体的な内容についてということですが、お答えできる範囲で。

事務局

まずシルバー人材センターの会員数の目標値につきましては、456人というのは、先ほども申し上げている高齢者福祉計画という中で456人というのがあります、それを持ってきているということで、その高齢者福祉計画を立てたときの根拠までは、すみません、ちょっと確認ができておりません。申し訳ありません。

2点目の、雨水ポンプ場の長寿命化というところで、こちらは長寿命化ということで、一つは耐震的なところ。もう一つは、設備がやはり老朽化していますので、設備を更新するのですが、単に更新するだけではなくて、より長持ちしやすいものとか、あるいはメンテナンスしやすいような設備に切り替えていくというところで、そういった長寿命化工事を順次やっているというところでございます。

最後、進行管理のところ、来年度どれくらいかということなのですけれども、そこはまだ検討中なところがございまして、何のために検証するかといえば、やはり、検証した結果、特にこの基本目標に対して達成状況を見て、それが思わしくないときに、どの施策がボトルネックなのかということ、その施策を改善して行って、また計画を改定したり、あるいは予算に反映させていくということが必要ですので、そういったところで一番ふさわしい時期に開催したいと思っております、そこはまだ検討中ですので、次回にもう少しお示しできれば

とは思います。現在はそういうところで、検討しているという段階でございます。

座長

ありがとうございました。

平野委員

4年間を見越してということになりますか。

事務局

そうですね。4年間、毎年検証作業をやっていく。毎年、この会議自体は開かせていただいて、検証していきたいと考えております。

座長

ありがとうございました。

全体の時間も超過しておりますので、委員の先生方から各項目、目標設定、目標値についてもいろいろご意見いただきましたので、それを踏まえて、修正なり再検討するようなところを補正していただきたいと思います。

それではこれで、すべての議題を終了いたしましたので、進行を事務局にお返しいたします。

事務局

内田先生ありがとうございました。

本日いただきましたご意見、ご提案につきましては、現在実施しておりますパブリック・コメントでいただいたご意見と合わせまして、事務局において整理をさせていただきたいと思っております。今月下旬に開催いたします本部の第4回会議において、総合戦略を策定するという手順を進めたいと考えております。

次回の推進会議につきましては、3月28日の月曜日を予定しております。次回におきましては、総合戦略の策定後ということにはなりますけれども、その総合戦略のご報告、また、各交付金事業の検証・方針等を予定しておりますので、年度末の慌ただしい時期ではございますが、どうぞよろしくお願ひしたいと思ひます。

3 開会

事務局

それでは、以上をもちまして「清須市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進会議」の第3回の会議を終了させていただきます。

本日は長時間にわたりまして、大変おつかれさまでした。これにて閉会させていただきます。どうもありがとうございました。

以 上